

令和8年度学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(1) ニーズに応じた教育内容の充実 (2) キャリア教育の充実 (3) 視覚障害教育の専門性の向上 (4) 相談体制の充実 (5) 関係機関との連携 (6) 防犯・防災計画の整備 (7) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止</p>		
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>幼稚園部</p>	<p>・自分の気持ちを相手に伝える力を育てる。</p>	<p>・幼児の気持ちを受け止め、感情を言葉にしたり、伝え方の模範を示したりする。</p>	<p>・幼児が運動や制作などの活動に安心して取り組めるよう、教材や支援における工夫をチームで考え、実践する。</p>
<p>小学部</p>	<p>・学ぶ楽しさや、自分の成長を実感することで、主体的に学ぼうとする力を育てる。</p>	<p>・視力測定の結果に基づき児童の見え方や実態を捉え、支援計画や授業計画に反映させる。 ・体験学習を豊富に設け、体験に基づく児童の言動を適切に支援し主体性の伸長を図る。</p>	<p>・教員同士で授業を見学し合い、児童や教材の捉え方、指導方法などについて意見交換を行う機会を設ける。 ・発達段階や見え方に応じて、体験学習の重要性や効果を踏まえ、意欲の連続性を意識して支援する。</p>
	<p>・生徒一人一人が自分なりの目標に向かって一生懸命取り組める環境づくりを行う。</p>	<p>・学校生活の中で生徒が自己存在感を実感できるようにする。 ・「ONE CHALLENGE！」を合言葉に友達と協力したり、挑戦したりできる場面を設定する。</p>	<p>・生徒一人一人が輝く場面を学校生活全体で設定し、都度適切に認め励ます。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて役割を明確にし、協同的な活動を取り入れた授業改善に取り組む。</p>
<p>高等部</p>	<p>・生徒や保護者と連携をし、将来につながる主体的で対話的で深い学びにつなげる。</p>	<p>・生徒や保護者と日常的に情報の収集、提供、共通理解に努めて、将来を見据えた学習や活動の充実を図る。 ・体験的、実践的な活動を設けて、将来の自分の生活と関連付けて考えられるようにする。</p>	<p>・体験的な学習を多く設ける。 ・進路先や実習先を積極的に開拓する。 ・生徒自身が将来の姿をイメージできるように学習や活動、実習を関連付けて指導や支援にあたる。</p>
	<p>・幼児児童生徒個々のニーズに応じた組織的な指導・支援の充実。</p>	<p>・新様式となった個別の教育支援計画と個別の指導計画を用いて、必要な情報を共有する。 ・教員同士が互いの授業を参観し、指導・支援方法の共有と、指導・支援技術の向上を図る。</p>	<p>・必要な情報にアクセスしやすいよう、保管場所と保管方法に留意する。 ・新様式を運用しながら修正し、より使いやすい形へ改善する。 ・参観に対する互いの心理的コストを最小化し、円滑なコミュニケーションが生じるよう留意する。</p>
<p>ICT支援部</p>	<p>・児童生徒の実態に応じた情報取得の方法を模索する。</p>	<p>・生徒の実態に合わせた情報へのアクセス方法について、紹介と研修を行う。例①デジ図書、②生成AIを用いた音声による情報収集、③視覚情報補助アプリ紹介、④ipad等の音声操作方法等。</p>	<p>・生徒・職員の情報リテラシーの幅を考慮し、簡単に取り組める内容を重視し、手軽に試せる入門的な内容にする。</p>
<p>教育支援部</p>	<p>・校内の地域支援体制の充実。</p>	<p>・校内児童生徒の視力測定や地域で学ぶ児童生徒の定期教育相談をより多くの職員が担当できる体制をつくり、盲学校全体としてのセンター的機能の向上を図る。</p>	<p>・視力測定のための研修会を計画・実施したり、教育相談の現場を参観できる機会を設けるなどの取り組みを進め、より多くの職員が視覚障害児者の視機能評価や支援に関わるためのスキルアップができるようにする。</p>

進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なキャリア教育・就職支援を目指しPTAとの連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度作成した進路の手引きを配布し活用の周知を図る。 担当PTA役員と進路指導部と連携し、保護者のニーズを把握し、専門性の高い講演会講師選定に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 配布のみにならないよう周知の場を設定する。 特定の保護者のニーズに偏ったり参加しにくい日時になったりしないよう配慮する。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動やいじめ等の早期発見、早期対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の生徒指導上の問題点について職員間で共通理解を図る。 「こことからだのアンケート」を実施し、いじめや悩みに対して早期発見・早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部の生徒指導上の課題や問題点を生徒指導部で情報共有し、SC・SSWの活用を含め早期対応に努める。 生徒指導委員会を有効に活用し、生徒指導上の問題について組織的に対応する。
	<ul style="list-style-type: none"> 防犯・防災への意識向上と体制の整備充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や日々の啓発活動を通して防犯・防災への意識を高める。 職員の防犯・防災体制への共通理解及び円滑な運用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火災、不審者侵入を想定した訓練の中で避難行動や適切な対応を確認し、有事の際の意識向上を図る。 訓練を通して、職員の役割分担や防犯・防災グッズの活用などを確認する。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の生涯にわたる健康の保持増進。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教職員が、幼児児童生徒の心身の健康課題に適切に対応できる能力を養う。 学校、家庭、地域の医療機関等との連携を深め、幼児児童生徒の健康課題に対処する 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の体調や様子を観察し日常の様子を把握しておく。普段と違った様子になるべく早く気付けるようにする。 新たな疾患や対応などの情報を職員全体で共有する。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校食育の推進と安心安全な学校給食の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 配膳や食事の場を通して、望ましい食習慣と食に関する実践力を身に付ける。 配膳前健康、身だしなみチェックなど衛生管理の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の時間に多くの教育的価値があることを職員が意識する。 配膳を実施できるかどうか、感染症流行期は特に細かく確認する。
広報・渉外部	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動における、視覚障害への理解促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護等体験など外部団体が来校する際、学校要覧や視覚障害の教員を通じて具体的な配慮や留意事項を伝達する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸活動の実施計画案を見直し、活動時間や活動内容を厳選して行うようにする。また各会議で提案し、意見を集約する。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校所属のキャラクターを生かした広報活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに特設コーナーを設けたり、本校125周年事業の中で啓発できる内容を考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校全体で目標に取り組むことができるようにPTAをはじめ関係各所に働きかける。
寮務部	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に寄り添った生活支援の質向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究、研修を通して、職員のスキルアップを図ることや定期的なケース会議の設置などで、一人一人のニーズに応じた支援の検討と統一を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭との情報共有を密に取り、連携を深めながら支援にあたること。
	<ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎運営体制の充実と安定化。 	<ul style="list-style-type: none"> R7に見直しを図った業務や職員体制をもとに運営を進め、定期的な情報交換にてさらなる改善点等を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも担当できるよう、業務の可視化を行いながら進めていくこと。
療養部	<ul style="list-style-type: none"> 療養分野における就職先の拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業学年の生徒はもちろん、2年生の就職希望をも踏まえて、企業や事業所の情報を収集し、多様な方法で療養師を雇用することの有効性を伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と連携し、企業や事業所が求めている情報を、文書、電話、訪問などの手段を用いて伝え、本校生徒の知識や技能についても深い理解を得られるようにする。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実 視覚障害教育の専門性の向上 関係機関との連携 防犯・防災計画の整備 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止 		